

人生ハンド仏句

第24号

H. 16. 3. 1

(毎月1日発行)

俱生霊神符の話二

住職 谷川寛俊

俱生神と呼ぶのは、二人の神様を一緒に申すので、本当は同生天(どうしようてん)と言う神様と同名天(どうみょうてん)と言う神様です。同生天は身の危険を護ってくださる神様です。

同名天は生活を守ってくださる神様です。

同生、同名の二天神に護られていることを初めて人が知ったのは、今から二千三百年も前のことです。その証拠になるものは、その頃書かれた華嚴経(げんぎょう)という經典です。それには、

人が生まれるとき、同時に二天神と一緒に付いて現れる。

一を同生といい、一を同名という。天神はいつもその人を見守っているが、その人は天神のことに気が付かないと書き残されています。また法華経の安楽行品にも、

もろもろの天神は昼も夜も、法(みち)を守る人のために、積極的な護りをしている。

天はもろもろの童子を以て、法(みち)を守る人に仕えさせて、刀杖の害や毒の害を防いでいる。と説いています。

もろもろの天神とか、もろもろの童子というのは、俱生神の同生天と同名天の二天神のことです。

華嚴経も法華経も、共に今から二千年以上も前にに出来た經典です。

その頃の經典作者の経験が、その一句に成っているところに注意して下さい。また今から千二百年ほど前に、中国で有名だった天台大師の書物に

「城を守る大将が強ければ兵隊も強く、弱ければ兵隊も弱くなる。

それと同じように、同生、同名の二神は、よく人を護るのであるが、人の心が強ければ強いほど強く現れる。」と書き残している。

また天台大師から六代目弟子だった妙楽大師は、前の天台大師の言葉を説明して、

「城は身のようにあり、大将は心のようにあり、兵隊は身の神のようである。城も兵隊も大将の強さでまゐる。身の神は自身と名前が同じであり、自身と生まれが同じである。このことは生命の神秘による自然の現れである。天神は常に人を護るといっても、実際は信心の固いことが護られる条件で、固いほど天神の護りは強く現れる。」

と書き残しています。

わが日蓮大聖人も、龍ノ口の御法難をかえりみられて、あの夜、首が切られなかったのは俱生神のご守護であった。」と弟子達に体験を語られました。

去る九月十二日の夜中には、実に

危ないところを逃れた。信心が固ければ神の護りが強いというのは是である。女等はゆめにも疑って

はいけない。俱生神の護りは絶対である。日蓮大聖人はこの外にも、俱生神様のご守護について、沢山おしえておられます。

書き残されたものは全部、過去の人が経験した事実です。事実ですから信じなければ成りません。

この世で信に足るものは現象の事実だけです。あなたも俱生神様のご加護を信じてください。霊神符をいつでも肌身離さず身に付けていることが、その信の現れです。全国数十万の聖徒は、全部そのご守護の体験者です。あなたも今日からその仲間です。

強く正しくにこやかに
上を見て進め 下を見て書らす